

学習内容報告書 フォーマット

学校名	佐世保市立宇久中学校
授業者	森崎晶葉 尾田祐介

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

イカ・魚釣り体験及び海洋観察

1-2. 学年

1、2年生（8名）

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

理科

1-4. 単元の概要

理科におけるカリキュラムの位置づけは、動物の体のつくりにおいて、軟体動物と脊椎動物（魚類）を観察することである。また、その試料を実際に海岸で自分の力で工夫して採取することで魚やイカの生きている環境や生態についての理解が深まり、解剖によって得られた気づきを環境と結びつけて広い視野をもって理解できると考えた。

今年度は、イカに加え、魚の採取を行った。同じ地域の海に住むイカと魚では体のつくりはどう違うのか。さらに、脊椎動物と無脊椎動物の特徴をとらえながら比較させたり、事前に学習しているヒトの体のつくりの知識と魚の体のつくりを比較することによって、共通するところを探したり、住む環境が違うことで多くの異なるつくりがあることに気づかせる。解剖の際は、観察の仕方や記録の取り方に加え、内臓を傷つけないための解剖ばさみの使い方などの基本的操作も実際に行う。

また、地域の海洋資源を学ぶという側面もある。生徒にとってイカや魚の採取は、単なる日頃の「釣り」にすぎないかもしれないが、そこから生命の尊さや海洋の環境について学ぶことで地域を知り、さらにイカや魚の生態、人と海洋生物のかかわりを学ぶことができると期待できる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

地域の海に生息する身近な海洋生物の採取を経験する活動を通して、海洋生物の生態の観察や私たちの生活には欠かせない海洋資源に対する理解を深めるねらいがある。さらに、実際に自分で入手した海洋生物の体のつくりを解剖し、観察することで、魚類や軟体動物の身体的特徴を捉えるだけでなく、海洋の環境や生態と結びつけることができ、より深い学びへとつながることを目指した。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

地域に生息を実際に採取することで、その生物の生態系や環境に興味・関心を持つ。また、採取した生物を解剖・観察することで、からだのつくりやはたらきを他の生物と比較しながら説明できる能力を育成する。さらに以上2点から、地域の海洋における親しみや感謝の態度を育成する。

1-7. 単元の展開（全 8 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<ul style="list-style-type: none"> ○3か所の海岸をめぐる海洋への理解を深める。 ・島と海を総合してとらえ、人々が島が海の恩恵を受けて生活していることに気付く。 ・海岸での観察を行い、海岸に生きる生物や海洋の様子の違いを観察する。また、プラスチックごみの多さに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3地点の海岸を観察し、潮だまり、砂浜、岩場などの環境の違いに気づかせる。また、ごみの多さにも触れ自然環境にも目を向けさせる。 ・マイクロバスを貸し切り、各地点を回る。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○無セキツイ動物の分類について学習する。 ・代表的な仲間について例をあげ、分類する。 → 軟体動物（頭足類、腹足類、貝など） (外套膜をもち、えら呼吸をするなかま) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常授業で、画像や動画を使用し学習する。 (教科書および資料集)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○採取地点へ移動し、魚・イカ採取について注意事項について学習する。 ・海岸で採取活動を行うため、安全指導を行う。 ・実際の採取に必要な道具の使い方を知る。 ・イカや魚の習性を知り、竿の動かし方や餌木のサイズなどを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具 竿、餌木、サビキ仕掛け、餌、クーラーボックス等の釣り具、移動用のバス ・通常イカ釣りをされる地域の人材に事前に声をかけ協力をお願いする。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○魚班・イカ班に分かれ、採取を各自行う。 ・イカ班は、釣れるよう餌木を工夫して動かす。 ・魚班は、魚を釣りながら海洋が与えてくれる生命のありがたさや力強さを感じる。 ・釣れた場合には、理科室の冷凍庫で保管する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に注意させる。必ずライフジャケットを着用させる。 ・来た時よりも、きれいに後片付けをさせる。 ・必要な分だけをクーラーボックスrに入れるよう指示する。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○イカを解剖し、体のつくりを観察する。 ・教科の指導にそって、解剖する。 ・外套膜、えら、肝臓、墨袋などからだのつくりを確認する。また、レンズをとり出したり、口から液体を注入し、消化管をたどったり、吸盤を細かく観察し、他の生物と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに生命の尊さに触れる。 ・冷凍したイカを自然解凍する。 ・解剖ばさみを含め、解剖操作の説明をする。 ・ワークシートを用いてスケッチさせ、問いに答えながら各部位に注目させる。

1	<p>○魚を解剖し、体のつくりを観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外観の観察をする。 ・手順にそって解剖を行い、消化器官等の内部を観察する。 ・違う種類の魚でも行い、違いを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外観を観察させたのち、解剖の手順を説明し、実践させる。 ・内臓を傷つけないように気を付けさせる。 ・机間指導を行いながら、疑問を投げかけるなど細かく観察するよう働きかける。
1	<p>○解剖した結果から軟体動物や魚類の特徴をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無セキツイ動物における軟体動物の特徴を前時のイカの特徴を抑えながらまとめ、分類するための手がかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをもとに、抑えておくべき特徴を整理させる。また、イカ、魚、ヒトを比較させることでそれぞれの特徴や共通点に気づき、理解を深める。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・地域の海にいる魚及びイカを採取する体験を通して、それらが生息している地域の海洋環境に目を向け、日ごろから海洋が与えてくれる恵みに感謝する態度を養う。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 道具の準備をする。	・必要な道具：竿、餌木、サビキ仕掛け、餌、クーラーボックス等、ライフジャケット、移動用のバス
2 バスで移動する。	・通常イカ釣りをされる地域の人材 3 名と指導内容の確認。
3 魚班とイカ班に分かれ、説明を聞く。	・地域の方より、説明を受ける。仕掛けのつけ方、竿の投げ方、リールの引き方などを学ぶ。
4 釣りを始める	・安全に注意させる。必ずライフジャケットを着用させる。仕掛けや生態からどうしたら釣れるかを考えさせながら行う。
5 採取できた時	・できるだけ傷をつけないように、クーラーボックスに入れる。
6 魚班とイカ班で交代する。	・両方体験できるように交代して行う。
7 道具の撤収及び掃除、かたづけ	・来た時よりも、きれいに後片付けをさせる。
8 バスで帰校	・帰校後、十分に手洗いをするように指導する。

3. 今回の活動の自己評価

目標を次の2点に設定していた。

- ①イカや魚を自分で釣ることで、その地域に生きるイカや魚の生態を考えるきっかけとなり、海洋生物の生きる環境についての理解を深める。さらに、地域におけるイカ・魚釣りを通して宇久島の海とのかかわりを再認識し、海資源に対する興味・関心を高めるとともに感謝の気持ちを持つ。
- ②イカ・魚・ヒトの体のつくりを比較することで、それぞれの相違点に気づき、環境や生態の違いを理解する。

それぞれ自己評価を行うと

- ①釣りを日常的に行っている生徒は少なく、イカ釣りを経験したことがない生徒も多くいたが、どの生徒も意欲的に取り組むことができた。釣りを楽しみながらも、針を抜くときにできるだけ傷つけないよう注意したり、跳ね回る姿から命をいただいていることを実感することができた。
また、感想から、「祖父と釣りに行きたい」「ほかの魚も釣ってみたい」「感謝して食べたい」などの記述があり、海とのつながりを大切にしようとする生徒が増えた。また、地域の方の協力も得られ、地域連携の取組としても実施することができた。
- ②生徒の気づきから、「速く泳ぐために細い形をしている」「イカの足はヒトと違い、獲物を捕まえて逃がさないために使う」など実際に海洋で生きる姿を想像しながら考察を行うことができていた。また、自分たちで釣ったこともあり、関心・意欲が高く、集中して学習に取り組むことができた。

4. 今後の課題

魚は全生徒が釣りあげることができたが、思うようにイカの採取ができなかった。時間帯や時期、潮の状況を踏まえて日程を調整する必要がある。またイカ釣り初心者の生徒が多くいたこともあるため、学年を超えて活動できれば経験者も増え、可能性が広げられると感じた。解剖に関しては、生徒が大変意欲的に取り組むがあまり熱中して時間が足りなかった。準備していた応用課題にも熱心に取り組んでいたため、来年度は時数を増やし、3時間解剖にあてることを検討していきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にありません。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。